

氏 名	河合 弘樹
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6921 号
学位授与の日付	2023 年 9 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Initial Outcomes of the Safe and Sound Protocol on Patients with Adult Autism Spectrum Disorder: Exploratory Pilot Study (成人期自閉症スペクトラム障害における Safe and Sound Protocol の初期成果：探索的介入研究)
論文審査委員	教授 小林勝弘 教授 石浦浩之 准教授 岡田あゆみ

学位論文内容の要旨

自閉症スペクトラム障害 (ASD) の社会性や感覚処理困難に関する特性への有効な援助方法は未確立である。Safe and sound protocol (SSP) は、低周波数の音を減衰し、言語的コミュニケーション領域に合致した周波数に調節した音楽を聴くことによって、自律神経系の安定化をはかるリスニングセラピーの一種である。我々は、SSP を ASD の診断を受けた成人期の参加者 6 名に実施し、Social Responsiveness Scale, 2nd edition (SRS-2) 下位項目の「社会的気づき」において介入前後で有意な改善を認めた ($p=0.027$)。また、SRS-2 の「社会的気づき」と、副次評価尺度との相関解析を行った結果、WHO Qualith of Life 26 の身体的領域 ($r=-0.577$, $p=0.0012$)、State-Trait Anxiety Inventory の状態不安 ($r=0.576$, $p=0.012$) および特性不安 ($r=0.708$, $p=0.00099$)、The Center for Epidemiologic Studies Depression Scale ($r=0.465$, $p=0.05$) に有意な相関を認めた。また、介入後に不眠の改善や声のボリューム調整ができるようになった等、臨床的価値のある変化も観察された。これらの結果から、SSP は成人期 ASD の社会性の障害を部分的に改善する可能性がある。

論文審査結果の要旨

自閉症スペクトラム障害 (ASD) の社会性や感覚処理困難を改善する治療法は未確立である。Safe and sound protocol (SSP) は周波数調節をした音楽を聴くことで自律神経系の安定化をはかるリスニングセラピーの一種であるが、これまでは小児での使用報告があるのみであった。

本研究では探索的介入研究として知能正常の ASD の成人 6 名に SSP を初めて実施し、Social Responsiveness Scale, 2nd ed. (SRS-2) 下位項目の「社会的気づき」において、介入前後で家族の評価では有意な改善を認めた。この評価と不安などに関わる副次評価尺度の一部と有意な相関を認めた。これにより SSP が成人期 ASD の社会性の障害を改善する可能性があることを示した。

委員からは、被験者数の少なさとバイアスの可能性が指摘された。本研究者は今後被験者数を増やし長期・反復使用することでこのセラピーの有効性を一層確実にし、多くの成人期 ASD に社会性の改善をもたらしたいというという展望を述べた。

本研究は成人期 ASD の社会性を改善するための SSP の有効性を示し、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。